

大学の世界展開力強化事業 構想概要 慶應義塾大学

【構想の名称】(タイプB-Ⅱ) グローバルエンジニア育成のための欧州理工系大学との連携プログラムの構築

【構想の概要】

EU圏の理工系高等教育機関との連携により、グローバルな視野を持ち世界共通の問題解決へ向けて活動のできるエンジニアを育成する。修士課程におけるダブルディグリープログラムの展開、博士課程学生の共同指導を通じた国際的協同事業の展開、学部学生等に対する導入プログラムの提供ならびに予備課程の整備等を通じて、キャンパスにグローバルな感覚を醸成するような環境を整備することを目標とする。

■ プログラムの目的・養成する人材像

○ グローバルな感覚を持つエンジニアの育成

大学として理工系高等教育における国際的な協同事業へ主体的に参画することで、多彩な教育プログラムを学生に提供し、言語や文化の違いを乗り越えて国際的な人脈を背景に活動できる人材の育成をめざす。

〈大学院授業風景〉



■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

○ 学部生を対象とした導入プログラムの提供ならびに準備課程の整備

留学の準備課程として学部学生に対し短期のサマースクールを複数用意し、欧州で学ぶことを実感する機会を提供する。また、学部1・2年生を対象に少人数体制の「国際人材育成セミナー」を開講し、世界の中での自分の立ち位置を理解させるとともに、外国語教育と国際的な教養科目の充実を図る。

○ 修士課程におけるダブルディグリープログラムの展開

すでに導入されている欧州理工系大学(T.I.M.E. Association加盟大学)とのダブルディグリープログラムの協定校を現在の4校から10校程度まで拡大し、日本人学生に対して留学の選択肢を増やすとともに、協定校から受け入れる留学生の多様性を高め、キャンパス全体の国際色を豊かにする。

○ 博士課程学生の共同指導を通じた国際的協同事業の展開

ダブルディグリープログラム参加学生の修士論文共同指導をきっかけとしてさらに博士課程での共同指導へと接続する。そこから生まれた共同研究のテーマを軸に、両国関係研究者で国際協同研究プロジェクトを立ち上げる。

○ 協定校学生に対する日本留学紹介プログラムの実行

夏季休暇期間に各国協定校の学生向けに特化した本学および日本の紹介を目的とした短期講座を設置する。日本語の学習履歴に応じた日本語指導と低学年学生向けの研究室体験セミナーを実施し、修士課程における進路として本学大学院を紹介する。

〈ダブルディグリープログラム学位授与〉



■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 他大学への発展、相互交流について

本事業の中核をなす大学院修士課程でのダブルディグリー制度は、日本人学生の派遣において既設の修士課程に大幅な変更を加える必要がなく、日本と欧州の大学院教育における特質を相互補完的に利用することができる点で水平展開が容易に可能となる。また、留学生の受け入れにおいては、欧州とのアカデミックカレンダーとの相違を吸収すべく、9月入学・9月修了を可能とする必要があるが、研究活動に主眼がおかれたカリキュラムが組まれている限りにおいては、既設のプログラムへの変更は容易にできる。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣のための環境整備

派遣前に先方での学習内容、語学の準備、渡航の手続き等に関して複数回のガイダンスを行うとともに、前年度以前の派遣学生から定期的に送られてくる月例報告書を開示し、多様な情報提供の機会を設ける。

○ 外国人学生の受入れのための環境整備

世界標準的なカレンダーに合わせた9月入学・9月修了を取り入れるとともに種々の学内制度を用意し、留学生専門の学習指導教員をおくなど、日本語能力が科目履修のレベルに達しない留学生でも英語により不自由なく学生生活を送れる体制が整備されている。生活面においてはキャンパスから徒歩圏内に留学生寮、チューター制度等も整備されている。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

修士課程DDプログラムによる派遣、博士課程学生の共同指導による派遣、学部学生を対象とした「グローバル人材に向けての学部教育システム」の一環で春季・夏季の海外研修、インターンシップ、サマースクール等の派遣を実施をする。

○ 外国人留学生の受入れ

DDプログラム、サマースクール、博士課程学生の受け入れ、その他の研究研修プログラム等の実施をする。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	25	45	120	180	200
学生の受入	10	30	50	70	100

大学の世界展開力強化事業 取組実績 慶應義塾大学

【構想の名称】(タイプB-Ⅱ) グローバルエンジニア育成のための欧州理工系大学との連携プログラムの構築

【プログラムの目的・養成する人材像】

理工系高等教育における国際的な協同事業へ主体的に参画することで、多彩な教育プログラムを学生に提供し、言語や文化の違いを乗り越えてグローバルな感覚を持ち国際的に活躍するエンジニアの育成をめざす。

【構想の概要】

EU圏の理工系高等教育機関との連携により、グローバルな視野を持ち世界共通の問題解決へ向けて活動のできるエンジニアを育成する。修士課程におけるダブルディグリープログラムの展開、博士課程学生の共同指導を通じた国際的協同事業の展開、学部学生等に対する導入プログラムの提供ならびに予備課程の整備等を通じて、キャンパスにグローバルな感覚を醸成するような環境を整備することを目標とする。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 修士課程におけるダブルディグリープログラムの展開

2011年12月27日に高等電気学校Ecole Supérieure d'électricité (Supélec)とダブルディグリープログラムを締結し、プログラム拡大を果たした。また、協定校である欧州理工系大学(T.I.M.E. Association加盟大学)との相互教員派遣を行い、留学生受入面接の実施や担当者と授業の取組や留学生の受入体制に関して打合せを重ねたため、活発な学生交換に繋がった。

○ 博士課程学生の共同指導を通じた国際的協同事業の展開

世界著名大学へ教員及び学生を相互派遣し、双方の学生の共同指導を実施することにより、国際的に活躍する将来のインダストリーリーダー育成を目指す。また、今年度実施した共同指導をきっかけに、博士課程ダブルディグリー展開への議論が活発化し、また今後の欧州域外大学との協力関係構築への布石となるなど、複合的な成果が見られた。

〈授業風景〉



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈企業訪問風景〉



○ 学部生を対象とした導入プログラムの提供ならびに準備課程の整備

留学の準備課程として学部学生に対し、春休み期間を利用して複数の短期研修を用意し学生10名を派遣をした。また、次年度開講予定の学部1・2年生を対象に少人数体制の「国際人材育成セミナー」カリキュラムの完成へ向けて、教員4名を海外機関へ派遣し、国際的な教育の実態調査や国際人材育成セミナー夏期合宿での連携の可能性について議論した。

○ 協定校学生に対する日本留学紹介プログラムの実行

春休み期間に協定校との間で学生の相互訪問プログラムを実行し、次年度より夏季休暇期間に実施予定の日本語・日本文化研修を目的とした短期講座の紹介を行った。本講座では、日本語の学習履歴に応じた日本語指導と低学年学生向けの研究室体験セミナーを実施し、修士課程の進路としての日本留学を広報するものである。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

修士課程DDプログラムによる派遣、博士課程学生の共同指導による派遣、学部学生を対象とした「グローバル人材向けの学部教育システム」の一環で春季・夏季の海外研修、インターンシップ、サマースクール等の派遣を実施した。

○ 外国人留学生の受入れ

DDプログラム、サマースクール、博士課程学生の受け入れ、その他の研究研修プログラム等の実施を行った。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	53	100	120	180	200
学生の受入	85	100	115	130	150

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

注)H23は実績、H24以降は計画。

○ 日本人学生の派遣のための環境整備

派遣前に先方での学習内容、語学の準備、渡航の手続き等に関して複数回のガイダンスを行うとともに、前年度以前の派遣学生から定期的に送られてくる月例報告書を開示し、多様な情報提供の機会を設ける。E-Learning教材を揃え、その進捗状況確認やアドバイスを専門指導員が行い、語学に関する学生の自主的勉学の環境を整えられている。

○ 外国人学生の受入れのための環境整備

世界標準的なカレンダーに合わせた9月入学・9月修了を取り入れるとともに種々の学内制度を用意し、留学生専門の学習指導教員をおくなど、日本語能力が科目履修のレベルに達しない留学生でも英語により不自由なく学生生活を送れる体制が整備されている。生活面においてはキャンパスから徒歩圏内に留学生寮、チューター制度等も整備されている。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 他大学への発展、相互交流について

本事業の中核をなす大学院修士課程でのダブルディグリー制度は、日本人学生の派遣において既設の修士課程に大幅な変更を加える必要がなく、日本と欧州の大学院教育における特質を相互補完的に利用することができる点で水平展開が容易に可能となる。また、留学生の受け入れにおいては、欧州とのアカデミックカレンダーとの相違を吸収すべく、9月入学・9月修了を可能とする必要があるが、研究活動に主眼がおかれたカリキュラムが組まれている限りにおいては、既設のプログラムへの変更は容易にできる。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 慶應義塾大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB -))

グローバルエンジニア育成のための欧州理工系大学との連携プログラムの構築

【プログラムの目的・養成する人材像】

理工系高等教育における国際的な協同事業へ主体的に参画することで、多彩な教育プログラムを学生に提供し、言語や文化の違いを乗り越えてグローバルな感覚を持ち国際的に活躍するエンジニアの育成をめざす。

【構想の概要】

EU圏の理工系高等教育機関との連携により、グローバルな視野を持ち世界共通の問題解決へ向けて活動のできるエンジニアを育成する。修士課程におけるダブルディグリー(DD)プログラムの展開、博士課程学生の共同指導を通じた国際的協同事業の展開、学部学生等に対する導入プログラムの提供ならびに予備課程の整備等を通じて、キャンパスにグローバルな感覚を醸成するような環境を整備することを目標とする。

質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

修士課程におけるダブルディグリープログラムの展開

協定校の拡大および留学生確保に努め、協定校である欧州理工系大学(T.I.M.E.Association加盟大学)との相互教員派遣を行い、留学生受入面接の実施ならびに担当者との授業の取組や留学生の受入に関する打合せを重ねた為、学生交換の活性化が概ね目標どおりとなった。

博士課程学生の共同指導を通じた国際的協同事業の展開

世界著名大学と教員及び学生の相互派遣を行い、双方の学生の共同指導の経験を学内関係者で共有することができた。また、今年度実施した共同指導をきっかけに、博士課程DDプログラム展開への議論が活発化し、また今後の欧州域外大学との協力関係構築への布石となるなど、複合的な成果が見られた。

実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

授業風景



学部生を対象とした導入プログラムの提供ならびに準備課程の整備

大学院でのDDプログラム参加の準備として学部学生向けに複数の短期研修を用意し学生63名を派遣した。次年度開講予定のグローバルリーダーシップセミナー(原案の名称は「国際人材育成セミナー」)の海外実地研修に向け、教員を海外へ派遣し、実施時期やスケジュール、教員の役割分担などの詳細について及び実施会場の視察等を行うなどの準備を行った。

協定校学生に対する日本留学紹介プログラムの実行

夏休み期間にDDプログラム協定校の本学に入学する大学院正規留学生を対象にし、日本語サマースクールを試験的に開講した。サマースクールでは、日本語学習の機会を提供すると共に日本文化の紹介の一環としてホームステイの他、書道や課外アクティビティーなどを実施した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ向上

日本人学生の派遣

修士課程DDプログラムによる派遣、博士課程学生の共同指導による派遣、学部学生を対象とした「グローバル人材に向けての学部教育システム」の一環で春季・夏季の海外研修、インターンシップ、サマースクール等の派遣を実施した。

外国人留学生の受入れ

DDプログラム、サマースクール、博士課程学生の受け入れ、その他の研究研修プログラム等の実施を行った。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	58	162	120	180	200
学生の受入	15	30	50	70	100

日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

日本人学生の派遣のための環境整備

派遣前に先方での学習内容、語学の準備、渡航の手続き等に関して複数回のガイダンスを行うとともに、前年度以前の派遣学生から定期的に送られてくる月例報告書を開示し、多様な情報提供の機会を設ける。E-Learning教材を揃え、その進捗状況確認やアドバイスを専門指導員が行い、語学に関する学生の自主的勉学の環境を整えられている。

外国人学生の受入れのための環境整備

世界標準的なカレンダーに合わせた9月入学・9月修了を取り入れるとともに種々の学内制度を用意し、留学生専門の学習指導教員をおくなど、日本語能力が科目履修のレベルに達しない留学生でも英語により不自由なく学生生活を送れる体制が整備されている。生活面においてはキャンパスから徒歩圏内に留学生寮、チューター制度等も整備されている。

教育内容の可視化・成果の普及

他大学への発展、相互交流について

本事業の中核をなす大学院修士課程でのDD制度は、日本人学生の派遣において既設の修士課程に大幅な変更を加える必要がなく、日本と欧州の大学院教育における特質を相互補完的に利用することができる点で水平展開が容易である。また、留学生の受け入れにおいては、欧州とのアカデミックカレンダーとの相違を吸収すべく、9月入学・9月修了を可能とする必要があるが、研究活動に主眼がおかれたカリキュラムが組まれている限りにおいては、既設のプログラムへの変更は不要である。

授業風景



大学の世界展開力強化事業 取組概要 慶應義塾大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

グローバルエンジニア育成のための欧州理工系大学との連携プログラムの構築

【プログラムの目的・養成する人材像】

理工系高等教育における国際的な協同事業へ主体的に参画することで、多彩な教育プログラムを学生に提供し、言語や文化の違いを乗り越えてグローバルな感覚を持ち国際的に活躍するエンジニアの育成をめざす。

【構想の概要】

EU圏の理工系高等教育機関との連携により、グローバルな視野を持ち世界共通の問題解決へ向けて活動のできるエンジニアを育成する。修士課程におけるダブルディグリー(DD)プログラムの展開、博士課程学生の共同指導を通じた国際的協同事業の展開、学部学生等に対する導入プログラムの提供ならびに予備課程の整備等を通じて、キャンパスにグローバルな感覚を醸成するような環境を整備することを目標とする。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 修士課程におけるダブルディグリープログラムの展開

協定校である欧州理工系大学(T.I.M.E. Association 加盟大学)との相互教員派遣を行い、留学生受入面接の実施ならびに担当者との授業の取組や留学生の受入れに関する打合せを重ねた結果、学生交換が活性化し、実績が目標を上回った。また、2013年10月欧州理工系大学年次総会に於いて、Advisory Committee(運営委員会)のメンバーに選出された。

○ 博士課程学生の共同指導を通じた国際的協同事業の展開

世界著名大学の教員招聘や、本学の教員や学生を派遣したことで、双方の学生の共同指導の経験を学内関係者で共有することができた。また、共同指導をきっかけに、博士課程DDプログラム展開への議論が活発化し、今後の共同研究指導体制の構築へ向けた大きな布石となった。

〈授業風景〉



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈授業風景〉



○ 学部生を対象とした導入プログラムの提供ならびに準備課程の整備

大学院でのDDプログラム参加の準備として、学部学生向けに複数の短期研修を用意し、学部学生146名を派遣した。また、グローバルリーダーシップセミナー(原案の名称は「国際人材育成セミナー」)の海外実地研修を学部学生1・2年生を対象に行うことで、より早い時期に世界的な視野を持つ場を提供した。

○ 協定校学生に対する日本留学紹介プログラムの実行

夏季休校期間にDDプログラム協定校の本学に入学する大学院正規留学生を対象にした日本語サマースクールを開講し、日本語学習の機会を提供すると共に日本文化の紹介の一環としてホームステイの他、書道や課外アクティビティなどを実施した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

修士課程DDプログラムによる派遣、博士課程学生の共同指導による派遣、学部学生を対象とした「グローバル人材向けの学部教育システム」の一環で春季・夏季の海外研修、インターンシップ、サマースクール等の派遣を実施した。

○ 外国人留学生の受入れ

DDプログラム、日本語サマースクール、博士課程学生の受入れ、その他の研究研修プログラム等の実施を行った。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	58	162	175	180	200
学生の受入	15	30	65	70	100

注) H23~H25は実績、H26以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣のための環境整備

派遣前に先方での学習内容、語学の準備、渡航の手続き等に関して複数回のガイダンスを行うとともに、前年度以前の派遣学生から定期的に送られてくる月例報告書を開示し、多様な情報提供の機会を設ける。E-Learning教材を揃え、その進捗状況確認やアドバイスを専門指導員が行い、語学に関する学生の自主的勉学の環境を整えている。

○ 外国人学生の受入れのための環境整備

世界標準的なカレンダーに合わせた9月入学・9月修了を取り入れるとともに種々の学内制度を用意し、留学生専門の学習指導教員をおくなど、日本語能力が科目履修のレベルに達しない留学生でも英語により不自由なく学生生活を送れる体制を整備している。生活面においては、キャンパスから徒歩圏内に留学生寮、チューター制度等も整備している。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 他大学への発展、相互交流について

2014年3月に、DDプログラム生の進路サポートの目的で、第1回Keio University & Ecoles Centrales - Supelec Double Degree Program Networking with Corporations Kick-Off Meetingを開催し、協定校である欧州理工系大学の教員、フランス大使館、本学教職員、DD現学生やDD卒業生等が参加し、グローバルな社会で活躍するための人脈作りの場となった。

大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 慶應義塾大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

グローバルエンジニア育成のための欧州理工系大学との連携プログラムの構築

【プログラムの目的・養成する人材像】

理工系高等教育における国際的な協同事業へ主体的に参画することで、多彩な教育プログラムを学生に提供し、言語や文化の違いを乗り越えてグローバルな感覚を持ち国際的に活躍するエンジニアの育成をめざす。

【構想の概要】

EU圏の理工系高等教育機関との連携により、グローバルな視野を持ち世界共通の問題解決へ向けて活動のできるエンジニアを育成する。修士課程におけるダブルディグリー(DD)プログラムの展開、博士課程学生の共同指導を通じた国際的協同事業の展開、学部学生等に対する導入プログラムの提供ならびに予備課程の整備等を通じて、キャンパスにグローバルな感覚を醸成するような環境を整備することを目標とする。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

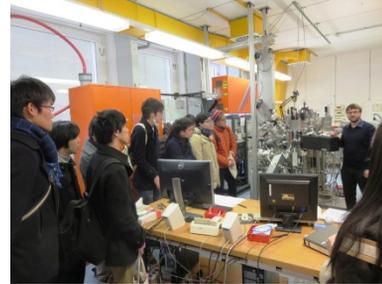
〈授業風景〉

○ 修士課程におけるダブルディグリープログラムの展開

協定校の拡大に努め、協定校である欧州理工系大学(T.I.M.E. Association 加盟大学)との相互教員派遣を行い、留学生受入面接の実施ならびに担当者との授業の取組や留学生の受入に関する打合せを重ねた結果、学生交換が活性化し実績が目標を上回った。

○ 博士課程学生の共同指導を通じた国際的協同事業の展開

世界著名大学との教員相互派遣を通じ、双方の学生の共同研究指導について学内関係者で共有することが出来た。また、共同指導をきっかけに、博士課程DDプログラム展開への議論が活性化し、今後の連携強化に向けた布石となった。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈授業風景〉



○ 学部生を対象とした導入プログラムの提供ならびに準備課程の整備

大学院でのDDプログラム参加の準備として、学部学生向けに複数の短期研修を用意し、学部学生176名を派遣した。また、グローバルリーダーシップセミナー(原案名「国際人材育成セミナー」)の海外実地研修を学部学生1・2年生を対象に行うことで、より早い時期からグローバルな視野を持つ場を提供した。

○ 協定校学生に対する日本留学紹介プログラムの実行

夏季休校期間にDDプログラム協定校の本学に入学する大学院正規留学生を対象にした日本語サマースクールを開講し、日本語学習の機会を提供すると共に日本文化の紹介の一環としてホームステイや課外活動などを実施した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

修士課程DDプログラムによる派遣、博士課程学生の共同指導による派遣、学部学生を対象とした「グローバル人材に向けての学部教育システム」の一環で春季・夏季の海外研修、インターンシップ、サマースクール等を実施し、海外派遣を促進した。

○ 外国人留学生の受入れ

DDプログラム、日本語サマースクール、博士課程学生の受入れ、その他の研究研修プログラム等の実施を行い、受入れを強化した。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	58	162	174	199	200
学生の受入	15	30	65	53	100

注) H23~H26は実績、H27は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣のための環境整備

派遣前に先方での学習内容、語学の準備、渡航手続き等に関してガイダンスを複数回実施するとともに、前年度以前の派遣学生から定期的に送られてくる月例報告書を開示し、多様な情報提供の機会を設けた。またE-Learning教材を揃え、その進捗状況確認やアドバイスを専門指導員が行い、語学に関する学生の自主学習の環境を整えた。

○ 外国人学生の受入れのための環境整備

国際標準に合わせた9月入学・修了を取り入れるとともに、留学生専門の学習指導教員をおくなど、日本語能力が科目履修のレベルに達しない留学生でも英語により不自由なく学生生活が送れるよう学内体制を整備した。生活面においては、キャンパスから徒歩圏内に留学生寮を用意し、チューター制度等の整備も行った。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

○ 他大学への発展、相互交流について

T.I.M.E. Advisory Committee(欧州理工系大学コンソーシアム運営委員会)メンバーとして、平成27年度にT.I.M.E.年次総会を東北大学と共同開催することが決定した。また、総会開催に合わせ、国内他大学およびDD卒業生や企業などを交えたグローバルな社会で活躍するための人脈作りの場を提供するダブルディグリーシンポジウムを計画推進している。

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 慶應義塾大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

グローバルエンジニア育成のための欧州理工系大学との連携プログラムの構築

【プログラムの目的・養成する人材像】

理工系高等教育における国際的な協同事業へ主体的に参画することで、多彩な教育プログラムを学生に提供し、言語や文化の違いを乗り越えてグローバルな感覚を持ち国際的に活躍するエンジニアの育成をめざす。

【構想の概要】

EU圏の理工系高等教育機関との連携により、グローバルな視野を持ち世界共通の問題解決へ向けて活動のできるエンジニアを育成する。修士課程におけるダブルディグリー(DD)プログラムの展開、博士課程学生の共同指導を通じた国際的協同事業の展開、学部学生等に対する導入プログラムの提供ならびに予備課程の整備等を通じて、キャンパスにグローバルな感覚を醸成するような環境を整備することを目標とする。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 修士課程におけるダブルディグリープログラムの展開

協定校の拡大に努め、協定校である欧州理工系大学(T.I.M.E. Association 加盟大学)との相互教員交換を行い、留学生受入面接の実施ならびに担当者との授業の取組や留学生の受入に関する打合せを重ねた結果、学生交換が活性化し実績が目標を上回った。

○ 博士課程学生の共同指導を通じた国際的協同事業の展開

欧州と欧州外諸国高等教育機関の連携推進を目指したErasmus Mundusプログラムの中で、本校のダブルディグリー協定校が中心となって研究交流を目指したBEAMプログラムと、後続するEASEDプログラムに続き、ECナント(ECN)と本学との2交換交流を目的としたプログラムおよびマドリード工科大学によるコンソーシアム型プログラム(Erasmus+)が採択され、今後の博士課程における連携強化に向けた布石となった。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

○ 学部生を対象とした導入プログラムの提供ならびに準備課程の整備

大学院でのDDプログラム参加の準備として、学部学生向けに複数の短期研修を用意し、学部学生143名を派遣した。また、グローバルリーダーシップセミナー(原案名「国際人材育成セミナー」)の海外実地研修を学部学生1・2年生を対象に行うことで、より早い時期からグローバルな視野を持つ場を提供した。

○ 協定校学生に対する日本留学紹介イベントの実施

夏季および春季休校期間にドイツ・アーヘン工科大学で実施した研修プログラムでは、参加した本学の学生と日本への関心を持つ現地学生との交流機会を提供することで日本への留学の意欲を高める役割を果たした。

〈短期研修の様子〉



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

修士課程DDプログラムによる派遣、博士課程学生の共同指導による派遣、学部生を対象とした「グローバル人材に向けての学部教育システム」の一環で春季・夏季の海外研修、インターンシップ、サマースクール等を実施し、海外派遣を促進した。

○ 外国人留学生の受入れ

DDプログラム、EM-EASEDプログラム交換研修プログラム等の実施により、受入を強化した。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	58	162	174	199	219
学生の受入	15	30	65	53	120

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣のための環境整備

派遣前に先方での学習内容、語学の準備、渡航手続き等に関してガイダンスを複数回実施するとともに、前年度以前の派遣学生から定期的に送られてくる月例報告書を開示し、多様な情報提供の機会を設ける。またe-learning教材を揃え、その進捗状況確認やアドバイスを専門指導員が行い、語学に関する学生の自主学習の環境を整えている。

○ 外国人学生の受入れのための環境整備

国際標準に合わせた9月入学・修了を取り入れるとともに、留学生専門の学習指導教員をおくなど、日本語能力が科目履修のレベルに達しない留学生でも英語により不自由なく学生生活を送れるよう学内体制を整備している。生活面においては、キャンパスから徒歩圏内に留学生寮を用意し、チューター制度等も整備されている。

〈シンポジウムの様子〉

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開・成果の普及

○ 他大学への発展、相互交流について

T.I.M.E.年次総会、International Symposium on Double Degree Strategy 2015の開催を通じて、新たに複数の国内外の大学とネットワーキングが構築され、参加校の一部とは協定締結などに向け準備が進められることとなった。

